飯舘の地で繁殖を再開させたい

大倉　佐藤 一郎さん

避難先で続ける和牛繁殖 飯舘の地で再開したい

相馬市で、避難当初から和牛の繁殖を継続。畜産が好きだったし悔しさがバネになっていたのだと思います。仮設住宅から牛舎に通って世話をして、仔牛は今まで100頭くらい生まれています。2年目からは地域の方と共同で牧草も作付け。検査したものをエサにしています。仔牛は震災前より高値で取り引きされています。

早く帰って飯舘の地で和牛の繁殖を再開させたい。やりますよ、大倉で。水田だったところに畜舎を建てて。できることから始めたいと、除染完了後の農地引き渡しを待っています。

農業で人の輪を広げ 村の皆を勇気づけたい

米もルールを守って少しずつでも作りたい。積み重ねなければ、信用は得られないし、信用が回復すれば売れると思っています。そして将来的には事業の会社化も考えたい。雇用もできるし継ぐ人も出てくる。利益のためにやる人も、生きがいでやる人も共にいきいきと、輪が広がればと思います。避難先でやっている人は、苦労を口にせずニコニコしていますが、歯を食いしばっている。帰る日を待っているお年寄りもいる。村の人に勇気を与えたいんです。

牛肉のイベントなどで村おこしをする先輩方のがんばりを見てきました。いずれは肥育にも携わり、育てた和牛を、村のお祭りなどで食べてもらいたい。あのにぎやかさが戻れば一番いいよね。

これまでのこと

村では家族と共に営農。当時は米作りが中心で和牛は10頭程でした。震災後、相馬市内の廃業した豚舎を借り、整地・整備をして畜産を継続。平成24年度からは、村が復興交付金で導入したトラクタを借り同市内の作業も受託しています。仮設住宅から牛舎に通い、現在は31頭を飼育。今年から村農業委員も務めています。

たくさんのサポートのおかげです

二枚橋・須萱　佐藤 博さん・洋子さん

あたたかな反響でしたやってみて、よかった

二枚橋地区は放射線量が低い場所でしたので、できれば栽培を再開したいと、国や村などに相談していました。心配もありましたが、いざやってみたらあたたかい反響でしたね。訪れてくれる県内外の皆さんとの交流も多くなり、取引先の人も、様子を見に来てくれたり、はけない時に引き取ってくれたり。今までは市場に出荷するだけでしたが、やってみて分かりました。いろいろな人のサポートがあってここまで来ることができたんです。

このイチゴを守りながら2人で頑張ってみます

今年は全量売り切れますよ。検査でも問題なく、実のできも良かった。技術はありますから。

そうは言っても軌道に乗ったと言えるのは、全てが元に戻ってからです。まだまだですが、今はこのイチゴを2人で守っていこうと思っています。

洋子さんから一言

結婚してからずっと一緒に百姓。自分達でいろいろ考えて取り組むようになり、農業が面白くなりましたね。仕事は張り合い、生きがい。協力をいただきながら2人で頑張っていきます。

これまでのこと

ハウスでイチゴの高設栽培を始め約10年。高冷地の気候を活かした夏秋イチゴが主力商品でした。震災後は平成26年8月から出荷を再開。収穫したイチゴが県の協力で紅茶専門店ルピシアのフレーバードティー「福恋いちご」に加工され話題にもなりました。大雪による苗作りハウスの倒壊、豪雨による浸水被害などを乗り越え、震災前の4分の1のスペースで栽培を続けています。

TOPICS
トピックス

東北屈指の規模で事業を開始 復興牧場「フェリスラテ」

株式会社フェリスラテ代表取締役
田中 一正さん（長泥）

現在、乳牛約200頭が北海道から運ばれ11月から分娩が始まるところ。牛を健康に飼い、いい牛乳を生産する。それを軌道に乗せて、従業員の生活もしっかり守っていけるよう、きちんとした経営を維持したいです。仔牛が生まれたら、牛乳はバケツ1杯から出荷しますよ!

長泥を好きになって入植し10年。目指していたものを本当は村でやりたかった。苦渋の決断ですが、県内各地で頑張っている人たちと共に、起きたできごとを血肉にして、災いを福に転じていきたいと思っています。

フェリスラテ（福島市土船）　500頭のホルスタインを飼育し1日15トンの牛乳を出荷していきます。長谷川義宗さん（前田）が牧場長を務めます。

営農再開をご検討の方へ

営農再開に関するさまざまな支援プログラムがあり、個別の相談も行っています。

営農再開を検討されている方はぜひお問い合わせください。

村復興対策課農政係
☎0244-42-1621